

今年の農学部祭中の11月3日(祝)に、緑友会総会を行います。総会終了後、懇親会の開催も予定しておりますので、卒業生のみならず是非農学部キャンパスにお越し下さい。昨今の様々な電子化に伴い、これまで緑友会会報についても、卒業の比較的新しい方へは電子配信としておりました。今年度からその範囲を広げ、さらなる経費削減や利便性改善を図ること致しました。みなさまには、ご理解、頂けますようよろしくお願い致します。

ここ最近、親しい諸先輩方の逝去の報に接すると「人の命は永遠ではない、いつでも会えるものではない」と実感させられます。みんなが元気なうちに会っておきたい、でも企画が面倒だし連絡先も分からないというような場合、緑友会にご相談いただき、緑友会が管理している卒業生名簿情報をうまく活用して、研究室同窓会やイベント開催に役立てて頂ければ幸いです。そこからビジネスが生まれたり、新たな縁が出来たりと意外な嬉しいことも起こります。また、ご友人と一緒に緑友会ゴルフコンペに参加されることも良いきっかけになるかもしれません。SNSやインターネットの情報で、繋がった気持ち、知った気持ちになることは多いかと思いますが、

緑友会の皆さまにおかれましては、日頃から本学の教育研究及び同窓会活動に多大なご援助ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。さて、昨年は本学の開校100周年でした。様々なイベントも開催され、盛大にこの記念すべき年をお祝いしました。こうして本学が100周年という長い歴史を刻んでこられたのも、卒業生はじめ多くの関係者の皆様のお陰であるといっても過言ではありません。今年も101年目、すなわち新たな次の100年を指した再スタートの年ということが出来ま

農学部緑友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より賜っております温かいご支援、ならびに年度末における大学院生への緑友会賞のご授与に、心より御礼申し上げます。受賞は学生にとつて大きな励みとなるのみならず、今後のキャリア形成においても大きな糧となっております。現在、農学研究科には博士前期課程221名、博士後期課程20名が在籍しており、本年度は

それぞれ増加したものの、博士後期課程については依然として定員に達していない状況にあります。このようななか、博士後期課程学生に対する授業料減免については、全学および農学研究科独自の制度により、希望者全員に適用することができました。さらに、本年度は科学技術振興機構のSPRING事業において、本研究科から5名の学生が採択されました。これらの学生には年間204万円の生活費に加え、研究費の支援が行われ、海外研修や起業関連プログラムへの参加機会が広がっております。また、日本学術振興会特別研究員の採択率も20%を超え、優秀な学生の育成と教員による丁寧な指導の成果が表れているものと考えられます。近年はAIやロボット技術の急速な進展により、それらを前

本年11月3日

近畿大学農学部緑友会第12回

総会・懇親会を開催いたします。

近畿大学農学部卒業のみなさま、ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

みなさまの母校農学部も、ここ最近の近畿大学の発展に大きく寄与しております。

社会人となった卒業生の中には、近大農学部OBのつながりをビジネスに活かして活躍の方も大勢いらっしゃいます。

緑友会は、近畿大学農学部とその卒業生と共に歩んで参りました。

その設立から30年以上が経ち、このたび近畿大学農学部緑友会第12回総会(令和5年度～令和7年度年間報告・収支決算報告ならびに令和8～10年度年間計画・予算・人事案)を、令和8年11月3日(祝)近畿大学農学部にて開催いたします。総会終了後には、農学部内において卒業生同士の情報交換・交流の場として懇親会を開催いたします。

是非、この機会をご活用頂き、会員相互の新たなつながりが生まれることを期待しております。懇親会には、現任教員も参加いたしますので、大学と社会のつながりにも貢献できるのではないかと期待しております。

ビジネスのみならず、この機会を同窓会の場として利用頂いても良いかと思っております。

総会開催当日は農学部祭が催されておりますので、ご家族お揃いでお越し頂いても楽しめると思います。

ぜひ多くの卒業生みなさまの参加をお願い申し上げます。

準備の都合上、電子メール(ryokujimu@nara.kindai.ac.jp)または電話(0742-43-7273(内線2030):直通)にて出席のご一報を頂ければ幸いです。

ふるさと納税のお知らせ

後輩たちの学びと学生生活を支えるため、奈良市ふるさと納税を通じたご支援をお願いいたします。今年はバス回数券特別割引を実施しました。近畿大学農学部

農学部長 森山達哉

次100年を目指して

農学研究科の近況

農学部緑友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃から本学の教育研究活動等に多大なるご支援ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

農学部及び奈良キャンパスの近況について、昨年度の改革実績を述べます。制度面で

近畿大学農学部

緑友会会報

第31号

発行所

近畿大学農学部緑友会

広報・編集委員会

編集委員長 松崎 健一郎

631-8505 奈良市中町3327-204

TEL:0742(43)1511

http://www.nara.kindai.ac.jp/

農学部の近況

奈良キャンパスセンター長 植田昌伸

農学部緑友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃から本学の教育研究活動等に多大なるご支援ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

近畿大学は、昨年創立100周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の御陰だと思ひ深く感謝申し上げます。次の100年にも社会に必要とされる私立大学として「建学の精神」と「教育の目的」に基づいた独自性の高い特色ある教育・研究活動を行うとともに、「常に革新」を行動指針とします。

農学部及び奈良キャンパスの近況について、昨年度の改革実績を述べます。制度面で

は、農学部・農学研究科の各種規程の整備、食品栄養学科助手の先生方の待遇改善を行いました。施設設備面では、研究棟の空調設備の改修、調整池A(体育館横)の法面補修、教室棟の照明器具のLED化などを行いました。さらに、学生からの要望に応え、研究棟1階のリフレッシュルーム(トレーニングジム)、レンタル自転車、テレキューブ(オンライン面接用個室ブース)を新設しました。

また、私の学生・院生時代の恩師であります北川進先生がノーベル化学賞を昨年受賞されました。誠にめでたいことであります。本学農学部からもノーベル賞級の研究者がでるよう、今後もイノベーションを生み出す環境を整備していく所存です。

最後に、農学部緑友会の益々の発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

令和7年度 緑友会賞一覧			
博士後期課程			
専攻	氏名	博士學位論文題目	
応用生命化学専攻(最優秀賞)	須見 友子	大動脈変性の機序と栄養の影響に関する研究	
環境管理学専攻(優秀賞)	石若 直人	生物間相互作用を考慮した温暖化下における農業の生態リスク評価(Ecological risk assessment of pesticide under warming considering biotic interactions)	
博士前期課程			
専攻	氏名	修士論文題目	
農業生産科学専攻	水谷 円	イネ品種「神丹穂」と「五百萬石」の交雑後代に出現した黒色糊個性の原因遺伝子の解析	
	吉田 弥睦	水稲への超微細気泡水の灌漑頻度と時期の検討	
水産学専攻	品原陽太郎	Studies on Photoperiod and Light Intensity Suitable for Seed Production of Penaeid Shrimp	
	都築 星矢	Studies on the Photoresponse Characteristics of Larval and Juvenile Scombrid Fishes for Seed Production	
	竹内 大起	吸虫性旋回病の対策開発に向けた基礎的研究	
応用生命化学専攻	佐野 青空	抗炎症効果を有するTabebuia avellanedae由来イリドイド類の合成と構造活性相関研究	
	有本明寿香	筋クランプ(足のつり)誘発モデルマウスの筋活動の定量的評価方法の確立と筋特性変化の解析	
	山本 将揮	食物アレルギーの経皮感作に及ぼす皮膚環境の影響	
	森 和歌史	酵母プレフェン酸デヒドロゲナーゼの分裂酵母を用いた発現系構築と機能解析	
環境管理学専攻	井上 慶士	ベトナム紅河下流部における塩水遡上の動態および数値モデリングに関する研究	
バイオサイエンス専攻	中村 蒼	高反応天然物ゼルンボン由来アレン誘導体のBrønsted酸誘導環化反応による多様骨格の一挙構築	
	栗原さやか	減数分裂期プログラムDSB応答におけるMek1によるRad53抑制と組換え鋳型選択の制御メカニズム	

学科の近況

農業生産科学科

学科長 神崎 真哉



当学科では、4月に新入生118名を迎え、無事に新年度をスタートいたしました。さて、「農業生産科学科」は令和9年4月より「農学科」と名称を変更する予定であり、本年度が農業生産科学科として迎える最後の入学生となります。「農学科」は平成16年度まで使用されていた馴染み深い名称ですが、現在の「農学」の姿は当時から大きな発展を遂げております。最新の技術や手法を積極的に取り入れ、近大らしい実学的な研究・教育を展開する、新しい「シン・農学科」として再始動する所存です。卒業生の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

水産学科

学科長 福田 隆志



当学科では、令和8年度4月より139名の新生が入学しました。また新たに3名の先生が教授に昇任されました。一方、長年水産研究所にて研究および教育にご尽力されました澤田好史教授が3月末で農学部をご退官されました。水産学科の現体制は全6研究室であり、研究室ごとに教育研究活動に励んでおります。様々なフィールドでの研究活動の特徴とする水産学科は、教員と学生たちが協力して日夜研究を行なっております。卒業生の皆様には今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

応用生命化学科

学科長 澤邊 昭義



当学科では、桜花爛漫のものと129名の新生を迎え、新年度を迎えました。また卒業式もA g r i 大和館で行いました。卒業生の皆様のご活躍を祈念しています。学科の近況は、今年も30名近くが大学院に進学しました。各教員の優れた研究指導のおかげと感じています。また、社会実装した研究も多く、社会に応用や貢献するための教育・研究を行っています。生命資源化学研究室の山下光明先生が教授に昇任され、教育と研究に一層励んでいただけます。これまで通り6つの研究室で研究・教育を進めていきますので、緑友会の皆さまの変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

食品栄養学科

学科長 伊藤 龍生



当学科は、管理栄養士養成コースです。栄養士資格と管理栄養士受験資格が得られます。国家試験に合格すれば管理栄養士の資格を得ることができます。1年生時に食品、栄養、病気、給食、栄養教育を学び、2年生には公衆栄養、臨床栄養、食品衛生等を学んでいきます。3年生時には、それぞれ科目の応用を学び専門性を高めるカリキュラムを組んでいます。4年生時には各研究室に配属され、卒業研究を行います。管理栄養士国家試験対策として、国家試験に熟知した専門講師を招聘し専任講師と力を併せて全員受験、全員合格を合い言葉に日々精進しています。教員は、専門分野に優れた業績と教育歴を有し、最新の研究と講義を行っています。

環境管理学科

学科長 井上 昭夫



当学科では、116名の新生を迎え、新たなスタートを切りました。人事では、令和7年度末にジン・タナゴナン先生がご退職された一方で、多炭雅博教授(環境情報学)および飯田悠哉講師(環境政策学)を新たに迎え、リモートセンシングなどの空間情報を駆使した研究を行われており、当学科におけるさまざまな分野と教育・研究の面で融合していただけるものと期待されます。また、飯田先生は、外国人農業労働者の実態調査を行われており、当学科における国際的な教育・研究のさらなる発展への貢献が期待されます。卒業生の皆さまには、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

生物機能科学科

学科長 佐渡 敬



当学科では、令和8年度入学試験で昨年度を上回る数の受験者の中から、定員より少し多い126名を新入生と迎え入れました。7研究室15名の教員のうち、1名は昨年9月より研究休

学科研究室・教員

農業生産科学科

- 作物学 (飯嶋 盛雄・山根 浩二・廣岡 義博)
- 育種学 (種坂 英次・柴山 拓司)
- 園芸植物学 (神崎 真哉・小枝 壮太)

- 植物感染制御工学 (松田 克礼・野々村 照雄)
- 昆虫学 (香取 郁夫・米谷 衣代)
- 農業経営経済学 (大石 卓史・増田 忠義)
- 花卉園芸学 (細川 宗孝・山崎 彬)

水産学科

- 水産増殖学 (石橋 泰典・亀甲 武志)
- 水産生物学 (小林 徹・小林 靖尚・渡邊 俊・村上 悠・竹内 綾)
- 水族環境学 (永田 恵里奈・谷口 亮人)

- 漁業生産システム (光永 靖・鳥澤 眞介)
- 水産利用学 (安藤 正史・福田 隆志・田中 照佳)
- 海棲哺乳類学 (酒井 麻衣)

応用生命化学科

- 応用微生物学 (上垣 浩一・倉田 淳志)
- 食品微生物工学 (白坂 憲章・福田 泰久)
- 応用細胞生物学 (森山 達哉・財満 信宏)

- 生物制御化学 (松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)
- 生命資源化学 (飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
- 森林生物化学 (板倉 修司・梅澤 究)
- 学科共通 (吉岡 佐知子)

食品栄養学科

- 栄養教育学 (小川 直子・明神 千穂)
- 臨床栄養学 (木戸 慎介)
- 病態栄養学 (伊藤 龍生)

- 公衆栄養学 (森島 真幸)
- 給食経営管理 (富田 圭子)
- 栄養機能学 (増田 誠司・竹森 久美子)
- 生体機能学 (佐久間 圭一朗)
- 食品化学 (近藤 高史)

環境管理学科

- 水圏生態学 (北川 忠生・河内 香織・宮崎 佑介)
- 生態系保全 (早坂 大亮・澤島 拓夫)
- 環境化学 (城島 透・清水 哲)

- 森林資源学 (正木 隆・井上 昭夫)
- 国際開発・環境学 (松野 裕・木村 匡臣)
- 環境政策学 (鶴田 格・前湯 光弘・飯田 悠哉)
- 環境情報学 (多炭 雅博)

生物機能科学科

- 植物分子生理学 (田茂井 政宏・佐古 香織)
- 植物分子遺伝学 (川崎 努・山口 公志)
- 動物発生工学 (加藤 容子・岡村 大治・谷 哲弥)

- 生体分子化学 (大沼 貴之・武田 徹)
- 動物分子遺伝学 (佐渡 敬・西原 秀典)
- 分子生物学 (篠原 美紀・加藤 明宣・松崎 健一郎)
- 生物有機化学 (北山 隆)

教養・教育基礎部門

木村 正則・赤羽 仁志・西垣 佐理・シェリダン ロバート ジョーン

下線：新研究室、新任

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名	卒業学科	年度
所属研究室		
現住所		
勤務先		

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先：〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

新任の挨拶



環境管理学科

教授 多炭 雅博

環境管理学科

講師 飯田 悠哉

令和8年度から環境管理学科環境情報学研究室に教授として着任しました多炭雅博(たすみまさひろ)と申します。前職では宮崎大学農学部で約20年間、主に農業気象や灌漑排水、環境リモートセンシング等の教育研究を行っていました。近畿大学農学部は私にとって、学生時代より大学教員時代を通して初めての私立大学の所属経験で、多くの新しい経験や発見ができるのではないかととても楽しみにしております。まだまだ着任して1か月余りですが、大学の環境が素晴らしい、特にキャンパス内の満開の桜やウグイスなど鳥の声、また富雄川の穏やかな流れに癒されます。学科の先生方とても親切に接してくださり、学生達も活発そうで、刺激を受けながら教育研究に励もうとワクワクしています。慣れおらずご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、早く馴染んでしっかりと貢献できるようがんばりますので、どうぞよろしくお願ひします。

このたび、環境管理学科・環境政策学研究室に着任いたしました飯田悠哉です。前任では日本学術振興会特別研究員 RPD として研究に従事しておりました。学生時代から長く京都に暮らし、6年は愛媛県松山で過ごし、6年は久しぶりの関西での生活を新鮮な気持ちで迎えています。緑豊かなキャンパスとその周辺の自然に日々親しみながら、教育・研究に取り組めることを大変うれしく思います。これまでは、食や農に従事する移住労働者について、特に職業上の健康被害に注目しながら研究してきました。今後も、食料生産の現場をより公正で安全なものにし、ディーセント・ワークの実現に少しでも貢献できるよう努めてまいります。学生の皆さん、先生方、地域の皆さまと学び合いながら、近畿大学での新たな歩みを大切に重ねていきたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

退任の挨拶



水産学科

前教授 澤田 好史

環境管理学科

前講師 ジンタナゴナン

このたび、3月をもちまして近畿大学を退職し、名誉教授の称号を頂きました。1994年に水産研究所へ着任し、その後農学部を主な所属として教育・研究活動に携わってまいりました。この間、学生、卒業生の皆様、多くの同僚や関係者の支えのもと、クロマグロ完全養殖をはじめとする水産増養殖分野の研究開発に挑戦する機会を頂きました。研究成果以上に、学生たちと現場で考え、試行錯誤を重ねながら成長できたことが何よりの財産です。

農学部に新設された国際資源管理学科の創設に伴い、フイリピン出身の外国人教員として平成3年に着任いたしました。当時は中国籍および米国籍の教員とともに学科の国際化に携わり、国際的に活躍できる人材育成を目指して、専門演習に英語教育や情報処理を積極的に取り入れてまいりました。

その後、農学部再編により平成17年に環境管理学科が発足し、フイリピンでの「海外調査・研修」を開始いたしました。夏季休暇を利用し、毎年15〜20名、延べ約200名の学生を引率する中で、多くの学生が異文化理解や環境問題について学ぶ貴重な機会となりました。この研修が今後にも継続・発展していくことを願っております。

長年にわたり賜りましたご厚情に心より感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

退職後は近畿大学名誉教授、北海道大学およびIPB University客員教授として活動しております。今後も近畿大学で培った経験を生かし、人材育成と社会貢献に努めてまいります。皆様への感謝とともに、卒業生ならびに農学部のさらなる発展を祈念いたします。

追伸…私事で恐縮ですが、このたび日本国籍を取得し、「岡田仁(おかだじん)」となりました。今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生 投稿記事



Latvia 国家最高勲章受章
2025.05.04

農芸化学科 昭和45年度卒業

上野 慶三

私は1969年昭和44年3月農学部農芸化学科フイリピンやインドネシア林産化学布施ゼミ卒業のアが原木輸出を禁止、世界一上野慶三です。学生時代は体育会ボデビル部を岸和田木材港の合板会社全農学部屋上に創設。ボデビルは日焼けが必要で、冬でも屋上温室で焼けるの合板技術コンサルトので最高の環境でした。屋上部室と布施ゼミ学友のお陰で、全日本学生ボデビル大会で優勝しました。奈良に農学部が移り布施農学部部長室に私の優勝写真を飾って呉れていました。

戦後の復興を支えたと言われた合板工場にゼミの仲間もそれぞれ就職し有能なポストに就くので学生時代の運動魂で土日も含めて200時間以上残業するほどやりがいのある時代で生涯ライバルの友人に恵まれました。1987年取締役工場長就任し、工場コストや業績だけでなく、営業・労務・総務・資金繰りetc全て一人で月次作成した事が今日の基礎となっています。時代の流れはオゾン層破壊地球温暖化問題

緑友会へのご寄付のお願い

このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与、現役学生の親睦レクレーション開催協力などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみなさまにご寄付をお願いする次第です。物価高騰など経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお寄付金は一口5,000円とさせて頂き上限はございません。お振り込みの際には、**お名前を卒業年度とともにお知らせ頂きますようお願い申し上げます。**(お手数ですが、お振り込み後には、お電話または電子メールにて、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです)

【振込口座】

三菱UFJ銀行 富雄出張所 普通 3574857
近畿大学農学部 緑友会

【連絡先】

近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273 (内線2030)
電子メール ryokujimu@nara.kindai.ac.jp

寄付者芳名一覧 (2026年度ご寄付分)

李忠儒 様 (昭和49年度 食品栄養学科卒業)
瓢野 晴比古様 (昭和49年度 食品栄養学科卒業)
佐古 満美子様 (平成9年度 国際資源管理学科卒業)

今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。

緑友会会報原稿募集のお願い



緑友会会報は、同窓生の皆様を結びつける年に一度の会報です。できるだけたくさんの方からの寄稿をお待ちしています。原稿の形式は特に問いません。お気軽にお寄せいただければ幸いです。

緑友会事務局又は、研究室の先生宛にご送付下さい。

連絡先：近畿大学農学部 緑友会事務局
〒631-8505 奈良市中町3327-204
電話 0742-43-7273 (内線2030)
メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

新入生の夢

今と未来の夢

農業生産科学科
橋爪 雄紀

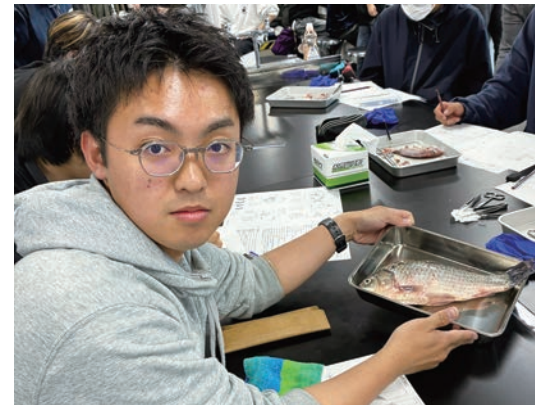
僕の近大での夢は、仲間と共に、緩やかに、しかししっかりと農学を学ぶことです。祖父が農家だったこともあり、幼い頃から農業に向き合う姿に憧れを抱いてきました。高校生の頃多くの農学部を調べる中で、ある日ふと、オープンキャンパスではない日常の奈良キャンパスを訪れました。先輩方の雰囲気や校舎の空気には、近大らしい活気と、どこかのびのびとした温かさがあり、「ここで学

自分のやりたいことを見つけるために

水産学科
倉澤 太一

私はこれまで多くの人に支えられてこの大学に入学することができました。高校で生物を学ぶ中で興味が深まり、オープンキャンパスを通じて「海の生物や環境についてもっと勉強したい」と確信したことが入学の決め手です。大学生活が始まり、イルカを愛する友人や水産高校・

離島の高校出身の仲間など、多様な背景を持つ人々に出会いました。彼らの熱意に触れる中で「自分のやりたいことは何なのだろうか」と自問し、周囲との差に焦りを感じることもありましたが、しかし、ここ数日で諸先生方の授業を受けていく中でまだ焦る必要はなく、



私の夢

応用生命化学科
久保田 大輝

私には、将来製薬会社に入り、新しい薬を開発するという夢があります。私は幼い頃から生物が好きで、次第に体内で起こる様々な反応に興味を持つようになりました。特に、生命活動を支える複雑な化学反応の美しさに強い興味を抱き、それらの現象を深く学びたいと考え、本学の応用生命化学科へ進学しました。病気に苦しむ人々を救う薬を作るために、この恵まれた環境で生物や化学の反応について積極的に勉強していきたいです。また、薬の開発には専門知識を修得するだけでなく多角的な視点が必要になると思うので、大学生の間しかできないサークル活動やボランティア活動など多様な経験にも挑戦し、様々な人と出会い、視野を広げて、必ず製薬の現場で人間の命を救うという夢を実現させます。この四年間で心身ともに大きく成長したいと思っています。

私の夢

食品栄養学科
谷口 滯

私は昔から、日常のほんの小さな時間が少しでも楽しく、美しさを感じられるような工夫を考えることが好きでした。日常の一瞬一瞬を小さな工夫により、大切にしたいという思いがあります。そして、そうした考え方は、毎日の中で欠かせない「食」にもつながるのではないかと思っています。私は、病気や体質によって食事制限が必要な人でも、「食べることを」少しでも楽しんでいます。私が特に注目しているのは、退院後の食生活です。入院時の病院食のような栄養管理を、退院後の自宅で続けるのは簡単では無いですが、そのために、

患者さん一人ひとりに合った食事を、フリーズドライなどの形で薬と一緒に提供できたいいのではないかと考えています。パッケージや見た目に工夫があれば、ただ健康を支えるだけではなく、制限がある中でも食事の時間が少し楽しみになるのではないかと思います。特に、食事は毎日の中で繰り返される時間だからこそ、その時間が少しでも前向きで、美しく感じられるものであってほしいです。まだ将来の道ははっきり決まっていますが、近畿大学農学部食品栄養学科での学びを通して、さらに具体的で実現性のある夢を見つけていきたいです。

私の夢

環境管理学科
三好 琉惺

私の夢は、小学生の頃に京都のある川で水遊びをした時から決まっています。それは「日本の美しい在来魚が無数にうごめく川」を、私の育った大阪にも取り戻すことです。一歩足を踏み入れると、川底を覆うアジメドジョウの群れが私の足を避けて群れの形を変える。石を裏返せば、たくさんのアカザとヨシノボリが飛び出し、深場に潜れば小さなウナギやオヤニラミが私を見て逃げていく。かつての淀川でも、無数のイタセンパラがワンド内を泳ぎ回り、石の隙間を覗くと、アユモドキが顔をのぞかせていたと聞きます。

私はこの夢を実現するために、本学での学びを通して、自然環境を多角的な視点で捉える能力を身につけ、自然保護に関する知識を学び、在学中から環境問題に積極的に取り組んでいきたいと考えています。いつか大阪の川にたくさんの在来魚たちを呼び戻せるよう、四年間精一杯精進してまいります。

私の夢

生物機能科学科
松山 陽菜

私の夢は、「自分の軸を持ちつつ、周囲の人も大切にできる人になること」です。そのためには、一日一日を少しでも前進のある有意義なものにすることが大切だと考えています。毎日を充実させることで心に余裕が生まれ、その余裕が周囲への配慮につながり、自分を起点とした穏やかな気持ちになれる循環を作れると考えるからです。私は大学受験で、自信を持って満足と言えるような結果を得ることはできませんでした。しかし、その経験を通して、自分は決して一人では生きていくのではないということや、支えてくれる人への有り難み、そして謙虚な姿勢の大切さを学びました。また、最後まで第一志望を諦めなかった経験から、自分の覚悟や意志の強さにも気付くことができ、自分自身を見つめ直す大きな機会となりました。

私はその悔しさを糧に、「近畿大学生として全力で楽しめ、有意義な四年間にしたい」と強く思いました。そのため、高校生の頃にはチャリダー部に所属していましたが、大学でも新たに近畿大学のチャリダーとして活躍したいと思いました。高校生の頃の私は、自分が将来どうなりたいたいかと

Blue Carbon Project

ブルーカーボンプロジェクト

START

城崎マリンワールド



近畿大学校友会 食品支部 会員募集中!

— 支部概要 —

設立 平成26年6月7日
支部長 松井 義明
年会費 5,000円 (臨時減額中)
会員数 135名 (令和8年4月1日現在)

連絡先

【事務局】

立花容器株式会社
岡山県小田郡矢掛町浅海385-1
TEL 0866-82-3300

食品支部は、2014年6月7日に「食」に関する専門職支部として設立し2024年におかげさまで 創立10周年を迎える事が出来ました。会員数も130名を超え、会員間でのビジネスマッチングを目的とした定期例会や国内外の会員企業への視察研修など、様々な活動を積極的に展開しています。食品メーカーだけでなく、広く全国の農林水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。ビジネスマッチング会合などの活動で、ご校友の皆様との輪が広がり、新たなビジネスチャンスに繋がる様、当支部活動へのご参加を心よりお待ちしております。



近畿大学校友会 食品支部 Facebookのご案内
公式Facebookを開設しております。校友会食品支部の様々な活動や情報をお届けしています。 近畿大学校友会 食品支部



いう“着地点”を明確にできていないことや、支えてくれる人への有り難み、そして謙虚な姿勢の大切さを学びました。また、最後まで第一志望を諦めなかった経験から、自分の覚悟や意志の強さにも気付くことができ、自分自身を見つめ直す大きな機会となりました。私はその悔しさを糧に、「近畿大学生として全力で楽しめ、有意義な四年間にしたい」と強く思いました。そのため、高校生の頃にはチャリダー部に所属していましたが、大学でも新たに近畿大学のチャリダーとして活躍したいと思いました。高校生の頃の私は、自分が将来どうなりたいたいかと見失わずに行動できるからです。また、自分の軸を持つことで、周囲との適切な距離感や物事への向き合い方も見えてくると思っていますし、自分自身が確立されているからこそ、周囲の人を大切にできる人になれるでしょう。私はこれからも多くの人との出会いや経験を大切に、友人とのかけがえのない思い出を築き、学生生活最後となるチャリダー部での活動にも全力で取り組みたいです。そして、様々な挑戦を通して成長し、近畿大学生としてより大いに活躍していきたいです。

在校生だより

研究を楽しむ

農業生産科学科
園芸植物学研究室4年生
長岡 良信

私は植物ウイルスとして最大の種数を持つベゴモウイルスに対する抵抗性遺伝



子をナスやキュウリを含む野菜から見つけ出す研究に従事しています。野菜はウイルス病にかかると、収量が大きく低下します。しかし、植物のウイルス病には、人間がインフルエンザにかかったときに飲む薬のよう



な治療薬・治療法は存在しません。そのため、あらかじめ抵抗性遺伝子を持つている必要があるのです。

研究室では、慣れない実験器具の扱いや日々状態を変える植物たちに苦勞する毎日ですが、試行錯誤を繰り返しながら未知に挑戦する生活はとても楽しく充実しています。このような生活を楽しめるのは、偏に主体的に考え、行動できる環境をつくり、維持してくださっている先生や先輩方のおかげだと感じています。

現在は、卒業論文に取り組み傍ら、進学に向けて準備を進めています。これからも研究を楽しみながら、この環境を維持する一員になれるよう努力していきたいと思っています。

答えを探していく学び

水産学科
水産増殖学研究室4年生
堀口 新昊

私は大学に入るまでは答えのあるものを学ぶことが勉強だと思っていました。でも、3年生で研究室に入り、4年生になって研究を続ける中でその感覚は少しずつ変わっていききました。現在はヌマチチブやヨシノボリといった琵琶湖に生息するハゼ科魚類を対象に研究を行っています。フィールドに出て調査をしたり、研究室での解剖やデータ解析を行ったりしながら、まだ誰も答えを知らないことに向き合う毎日です。とても新鮮で面白いです。また、一つの結果が出ると、そこから新たな疑問や課題が見えてくることも多くあります。その課題を少しずつ解き明かしていくことこそ、



研究の醍醐味なのだと感じています。大学での学びは答えを教わるものではなく、自分自身で探していくものなのだと実感しています。今年は、査読付き論文

自然に魅せられて

環境管理学科
生態系保全研究室4年生
青山 昇平

入学当初、私は高校生物の知識はあっても生き物の名前や生態、自然界に存在する不思議について何も知りませんでした。しかし、環境管理学科には魚や鳥や昆虫などに詳しい人達が沢山います。友人達に頼んで大学にいる生き物についてたくさん教わりました。身近にはこんなにも多くの生き物たちがいることに気づくと、当たり前だと思っていた景色が全く違う景色になり、興奮したことを覚えています。

特に私は植物の世界の虜になりました。これまで「雑草」の一言で片付けていたものに一つ一つ名前がつけられ、それぞれが興味深い生態を持っています。



緑友会へのメールアドレスの登録をお願いいたします

近畿大学では、デジタル化の推進を進めています。将来的には、緑友会会報を紙媒体から電子配信へと移行する予定です。今後とも緑友会とのつながりを大切にいただくため、メールアドレスの登録にご協力いただけますようお願い申し上げます。

【メールアドレスの登録はこちら】
<https://forms.gle/Ht1F2PxSVAPhGHuy5>

※会報発送封筒お名前の下に記載の卒業学部研究室(漢字2文字)、卒業年度(和暦数字)の入力をお願いいたします。

いのちをつなぐ企業 株式会社アクアテイメント

aquatainment
06-6955-9681
✉info@aquatainment.jp
代表 松前(西林) 水産学科2005年卒業

化学の通信制

学んだ先には未来がひらけるはず!!

4月・10月入学

実験スクーリングで技術修得
国家資格も取得可能!
企業の研修にも活用

先端化学分析学科
通信制(3年制)

日本分析化学専門学校

大学院生だより

スイカに眠る
“抵抗性”を探して
農業生産科学専攻博士前期課程
園芸植物学研究室
木澤 陸斗

私はスイカにおけるベゴモウイルス抵抗性について研究しています。ベゴモウイルスは、植物に感染すると葉の黄化や葉巻、矮化などを引き起こし、世界的に深刻な被害をもたらすウイルスです。トマトをはじめ、キュウリやメロンでは抵抗性遺伝子や抵抗性系統が見つかっていますが、スイカでは報告がありません。そこで私は、多数のスイカ系統にベゴモウイルスを接種し、感染の有無や症状を一

つひとつ確認し、ベゴモウイルスへの抵抗性系統を探しています。非常に地道な作業ですが、新たな育種素材の発見につながる可能性があることに大きなやりがいを感じています。私は将来、品種改良に携わる仕事に就きたいと考えており、その目標にも直結する研究です。抵抗性系統が見つかる保証はありませんが、研究はとても楽しいです。何か一つのこと

に集中して取り組むことはこの先多くはないと思います。残りの大学院生活を悔いなく、全力で走り続けたいと思います。



大学院での学び
応用生命化学専攻博士前期課程
生命資源化学研究室
田中 駿一

僕は、学部時代での研究に関心を深め、誰かの役に立てようという社会に貢献できる専門性を磨きたいと思い大学院に進学しました。

現在、骨の量が減少し骨折のリスクが高まる骨粗しょう症の予防に向け、植物由来成分の抽出・解析を行っていきます。既存の治療薬は副作用が強いという課題があるため、より安全で身近な成分から健康寿命の延伸に寄与することを目指し、日々実験と向き合っています。

大学院での生活では、学会発表や就職活動を通じて、頭の中にある複雑な思考や研究成果を論理的に整理し、専門外の人も分かりやすく伝えることの難しさと重要性を学びました。この経験は、自身の伝える力を養う貴重な機会になったと実感しています。

残り少ない学生生活ですが、大学院で得た知識と伝える力を原動力にして、社会に広く貢献できるよう、一歩一歩着実に歩みを進められるよう頑張りたいです。

現在、私は誰もが一度は経験したことのある「筋クランプ（足のつり）」について研究しています。特に運動に起因したものは高頻度で発生することが知られており、スポーツ現場で私自身も含めた多くの人がこの症状に苦しむ姿を見てきました。このように筋クランプは身近な症状であるにもかかわらず、その発症メカニズムは未解明な点が多いのが現状です。そこで、研究を通してこのような身近な問題を解決したいと考え、大学院へ進学しました。

卒業研究では、研究の面白さを感じた一方で、思うようにならなかったという経験もあり、大学院へ進学してからは、学会発表や就職活動を通じて、頭の中にある複雑な思考や研究成果を論理的に整理し、専門外の人も分かりやすく伝えることの難しさと重要性を学びました。この経験は、自身の伝える力を養う貴重な機会になったと実感しています。

大学院で得た知識と伝える力を原動力にして、社会に広く貢献できるよう、一歩一歩着実に歩みを進められるよう頑張りたいです。

イルカの母仔と私
水産学専攻 博士前期課程2年
海棲哺乳類学研究室
田中 海宇

日差しが強くなり生命の息吹く5月にこの文章を書いています。3年前の同じころ、私の初めての研究が始まりました。私は飼育ハクジラ類の母仔について研究しています。3年前の私は右も左もわからず研究の世界に足を踏み入れました。たったひとつ、イルカが好きだという気持ちだけで抱いて。新しい命の誕生というのは大変な奇跡です。仔が生まれた後の母親はすごいもので、とにかく仔から離れない。24時間体制の育児です。そしてそれを研究する私も同じ熱量で向き合わなければなりません。必死に母仔に向き合いながら研究を進めるうち

に3年が経ちました。はじめは1組の母仔を観察することから始まった研究は、いままでは7組の母仔を対象に研究しています。この3年間を通して、私も研究者のたまごから研究者の赤ちゃんならに成長しました。いえ、7組の母仔に研究者の赤ちゃんにしてもらいました。彼らに恥じない研究をこれからも頑張ろうと思います。



私は、日本に広く分布するシマドジョウ種群を対象に、染色体進化と種分化の関係について研究しています。生物では、染色体の本数や形状の違いが、生殖隔離や新たな種の形成に関与すると考えられており、本種群では地域集団間で核型に多型が報告されています。

修士論文では、核型の異なる集団間で交配実験を行い、交配後隔離を検証します。その前段階として、卒業論文では、先行

研究で核型が明らかになっていない地点の集団を対象に、染色体標本作製し、核型分析を行いました。

染色体標本の作製は、実験に用いる個体の状態によって出来が左右されるため難しく、失敗の連続でした。それでも、条件を少しずつ見直しながら、試行錯誤を繰り返して、納得のいく標本が得られるまで何度も作製を続けました。思うようにいかない場面も多くありましたが、その経験を通して、粘り強く取り組むことの大切さを学びました。今後も失敗を恐れず、研究に取り組んでいきたいです。

また、大学院生となり学部生を指導する立場になったことで、これまで自分自身のことを行うだけでも精一杯であったものが、研究室全体のこ

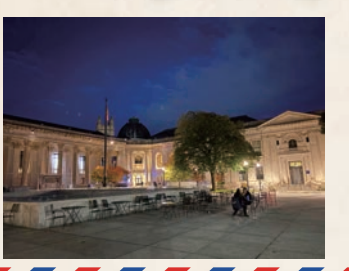
研究室全体のこ



私は大学院に進学し、学部生の頃から少しずつ技術を向上させてきた有機合成化学的手法を駆使することで、病気や健康に重要な役割を担うオリゴ糖などを選択的に検出・定量するための糖検出プローブの開発研究に携わっています。これまでの先輩方の研究により、とても興味深い結果がいくつも見だされており、現在、大変魅力的なテーマに取り組んでいます。昨年度末には、千葉県で開催された日本化学会において口頭発表を行う機会を頂き、他大学の先生方から質問を受けるなど、非常に大きな経験を積みつつあると感じています。

また、大学院生となり学部生を指導する立場になったことで、これまで自分自身のことを行うだけでも精一杯であったものが、研究室全体のこ

研究室全体のこ



結果が出ない難しさも経験しました。しかし、その過程で先生方や先輩方から多くを学び、計画的かつ粘り強く課題に向き合うことの重要性を実感しました。大学院では、これまでに学んだ計画性や粘り強さを大切にしながら、筋クランプのメカニズム解明につながる知見を積み重ねていきたいと考えています。周囲への感謝を忘れず、日々努力し、実りある2年間にしたいです。

私は大学院に進学し、学部生の頃から少しずつ技術を向上させてきた有機合成化学的手法を駆使することで、病気や健康に重要な役割を担うオリゴ糖などを選択的に検出・定量するための糖検出プローブの開発研究に携わっています。これまでの先輩方の研究により、とても興味深い結果がいくつも見だされており、現在、大変魅力的なテーマに取り組んでいます。昨年度末には、千葉県で開催された日本化学会において口頭発表を行う機会を頂き、他大学の先生方から質問を受けるなど、非常に大きな経験を積みつつあると感じています。

また、大学院生となり学部生を指導する立場になったことで、これまで自分自身のことを行うだけでも精一杯であったものが、研究室全体のこ



米国コロラド州立大学の在外研究
農学部環境管理学科
准教授
河内 香織

2025年7月から2026年3月まで、米国コロラド州立大学にて在外研究を行いました。現在コロラドでは、Y染色体を持つオス作出した河川に放流し、野外の外來魚個体の絶滅を目指す研究が進められています。私はこの手法による外來魚管理と河川生態系への影響評価をテーマとして、現地調査やデータ解析に取り組みました。標高3000mを超える調査地では、空気の薄さに苦労しましたが、ロッキーマウンテンの雄大な

米国コネチカット州での研究休暇
生物機能科学科
准教授
加藤 明宣

研究休暇を利用し、昨年からは米国コネチカット州のイェール大学医学部に滞在しています。

絶えず動き続ける分子の働きを、最新のクライオ電子顕微鏡技術を用いて捉える研究に取り組んでいます。目に見えないほど小さな生命現象を相手に試行錯誤の毎日ですが、新たな発見につながる可能性に胸を躍らせながら実験を重ねています。

研究の合間には、ニューヨークの名物のピザを味わうこともありますが、知の歴史と最先端研究が息づくこの街で、多様な研究者との交流を通じて視野を広げる貴重な一年となっています。



第14回 緑友会ゴルフコンペ 世代を超えた熱戦と笑顔の一日

令和8年3月7日(土)、第14回 緑友会主催ゴルフコンペを開催いたしました。当日は見事な晴天に恵まれ、参加者19名にて、終始にぎやかで笑いの絶えない一日となりました。農学部OB会らしく、参加者の年齢層は30代から80代までと幅広く、世代を超えた交流戦(？)が繰り広げられました。特に80代の先生の安定感には驚かされるばかりで、「年齢とは何か」と考えさせられる場面も多々ございました。プレー後の表彰式・懇親会も大いに盛り上がり、優勝は女性の方がスコア86で見事獲得されました。力強さと安定感を兼ね備えた素晴らしいプレーで、参加者一同納得の結果となりました。

おります。とはいえ、このままではいけないので、まずは一歩前進して「ブービーメーカー」の座を目指し、地道に(そして控えめに)精進していく所存です。なお、当日の集合写真を掲

る方々に挑むものの、気づけばしっかりと位置を確保して



第16回 KINKAN会 イベントを終えて



食品栄養学科(管理栄養士養成課程)の卒業生による「第16回 KINKAN会イベント」を、令和7年10月13日(月・祝)に開催いたしました。今回は初めての試みとしてキャンパスを飛び出し、大阪・難波にてランチ会形式で実施しました。美味しいパスタやカレー、サラダビュッフェに舌鼓を打ちながら、和やかな時間を過ごしました。

会には、現在管理栄養士として活躍されている方ももちろん、異なる分野で活躍されている卒業生も多数参加されました。「食品栄養学科管理栄養士養成課程の卒業」という一つの絆のもと、世代を超え



毎年恒例となっております「農学部祭」を、今年度も開催いたします。今年度の農学部祭は、2026年11月1日(日)から11月3日(火・祝)までの3日間にわたり開催する予定です。

初日の11月1日(日)には、学生が主体となって企画・運営を行う体育祭を開催いたします。続く11月2日(月)・3日(火・祝)には、一般の皆様にもご来場いただける農学部祭本祭を実施し、期間中は

農学部祭の案内

キャンパス全体が活気と笑顔に包まれます。例年好評の大型ステージでは、お笑いライブやアーティスト公演、学生による音楽ライブなど多彩な催しを予定しています。また、豪華景品が当たるビンゴ大会、仮装大会、e-sports大会など、世代を問わず楽しめる人気企画も多数実施いたします。

各研究室やサークルによる展示・模擬店では、農学部ならではの学びを楽しみながら体感していただけます。さらに、奈良の特産品が集まる「収穫祭」と、近畿大学名物「マグロの解体ショー」も同時開催。収穫祭では地域の食材を通じて「食と農」への理解を深められ、解体ショーでは迫力の職人技を間近で見学できるほか、捌きたてのお寿司も堪能いただけます。



緑友会Facebookのご案内！！

- ・農学部情報や卒業生の活躍など掲載
- ・卒業生向けイベント情報も発信
- ・母校の成長をリアルタイムで確認

ぜひシェアをお願いします！ → → →

【緑友会公式Facebook】

計報

元応用生命化学科名誉教授 駒井功二朗先生がご逝去されました。(令和七年七月)元応用生命化学科名誉教授 寺下 隆夫先生がご逝去されました。(令和七年十二月)ご冥福をお祈りします。



令和7年度近畿大学農学部 緑友会年間報告

月 日	項 目	場 所
4月15日	運営委員会	第一会議室
5月 9日	終身会費納付書発送(703通)	
6月 7日	幹事会	第一会議室
	1)令和6年度年間報告	
	2)令和6年度決算報告	
	3)令和7年度年間計画(案)	
	4)令和7年度予算(案)	
	5)その他	
9月16日	会報第30号会員へ発送	
10月 5日	緑友会ゴルフコンペ	京阪カントリークラブ
12月 9日	終身会費納付書2回目発送(505通)	
令和8年		
2月 3日	終身会費未納者を6学科に通知	
3月 3日	委員会	C会議室
3月 7日	緑友会ゴルフコンペ	加茂カントリークラブ
3月19日	緑友会賞 授与	

令和7年度近畿大学農学部緑友会決算

<卒業学部会>

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	5,170,079	郵便費	1,332,608
終身会費	3,160,000	印刷複写費	1,364,611
終身会費(遅延5名分)	50,000	会議会合費	57,478
広告掲載料	100,000	人件費	990,660
校友会同窓会費 立替	179,000	緑友会賞	150,000
寄付金	100,000	雑費	73,097
利息	9,071	終身会費過分返金	20,000
		終身会費二重振込返金	10,000
		校友会同窓会費 立替	179,000
		支出の部計	4,177,454
		次年度繰越金	4,590,696
合 計	8,768,150	合 計	8,768,150

会計幹事 掛樋 路代 会計幹事 永田 恵里奈
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。

令和8年3月31日

監事 小林 徹
監事 谷 哲弥